

令和7年度 全体現職教育

R8.2.2

【本日の予定】

- 1 全校の研究について
- 2 各部の実践
小学部→中学部→高等部
- 3 校長先生より



Ⅰ. 全校の研究

【全校のテーマ】

児童生徒が学び合える 集団の授業づくり

3年計画の2年次

テーマ設定の理由

「令和の日本型学校教育」

社会の在り方が劇的に変わる
「Society5.0時代」

先行き不透明な
「予測困難な時代」

ICTの活用



新学習指導要領の
着実な実施

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要

中央教育審議会 答申 R3.Ⅰ

テーマ設定の理由

「令和の日本型学校教育」

全ての子どもたちの可能性を引き出す

個別最適な学び

協働的な学び

それぞれの学びを往還

中央教育審議会 答申 R3.Ⅰ

テーマ設定の理由

【本校の課題】

- ・児童生徒の増加・教員の減少
- ・若年層教員の増加・教員の専門性の向上



<昨年度の成果>

・子どもの変容



- ・集団のなかで協力し、自己肯定感があがる
- ・友達に興味をもって声を掛け合う姿

・授業づくりのチェックリスト

授業づくりの参考になる
項目をまとめたリスト

授業づくりのチェックリスト(案)			
学習環境の設定	① 活動の目的や活動内の流れが視覚的に分かりやすく提示されている。		
	② 学習に対する意欲を高めるための環境設定ができている。		
	③ 座席配置や物の配置を工夫して、子どもが活動しやすい動線になっている。		
	④ 子どもの実態に応じた学習内容が設定されている。		
	⑤ 全ての子どもが学習に参加できるような活動の工夫がされている。		
	⑥ 実態を考えてペアやグループを設定している。		

<昨年度の課題> 昨年度のアンケートより

実態差のある集団の
学び合い

学び合いが難しい
子どもに対する支援

場面設定の難しさ

評価をどのように



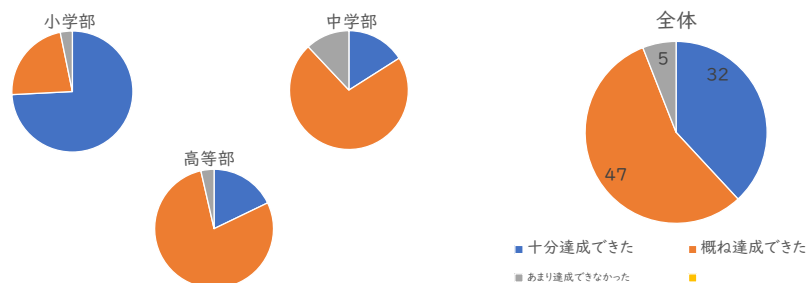
今年度の取り組みについて

- ・授業づくりのチェックリストを活用した授業実践
- ・指導案の評価規準に、学び合いにおける内容を入れ
授業討議で評価を行う



R7 学校評価アンケート結果

部や学年で設定したテーマに基づいて、「授業づくりのチェックリスト」を活用し、児童生徒が指導者や友達と関わりながら学び合える授業づくりをすることができたか。



授業実践について

(小学部) 部研 | 全校研 |
 (中学部) 部研 | 全校研 |
 (高等部) 部研 | 全校研 |



ビデオ視聴→授業評価アンケート記入

授業評価アンケートの実施

R7授業評価アンケート

単元名() 授業者名() 記入者名()
 研究テーマ 小学部(年) テーマ「 」

●テーマに基づいて、授業のなかで児童生徒が学び合っている様子と、
 そのために有効であった手立てについて授業評価をしてください。

児童生徒の様子	手立て ★教材教具★学習活動★言葉掛け★指導者の関わり方★評価の方法
例:A君とB君はお互いに相手のいいところを探して伝え合っていた。笑顔で楽しそうだった。	⑤ 友達同士で話し合いをする機会が設定されていた。 ⑫ 指導者が言葉掛けを減らし、カードや指さして話し合いを支援。 ⑥ A君が困ったときに「お助けカード」を使い、B君に助けを求めた。

学び合いに対する有効な支援
 (チェックリストの項目を参考に)

各部の研究討議

(小学部)
 ・発表場面での学び合いの支援
 ・学年集団の実態把握

(中学部)
 ・学び合い場面の設定について
 ・教科における学び合い

(高等部)
 ・学び合い ・「仕事・生活・余暇」の視点
 ・自己評価の工夫 ・社会に関わる力

目標の設定について

- ・学級や学校のなかで、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活のなかでの役割を果たすために必要な知識、技能を身に付ける。(知)
- ・友達の工夫をまねて、同じようにすることで達成感を得る。(思)
- ・全員の前で提示された課題に取り組む。(学)

<R7年度の指導案より>

評価規準の設定について

- ・友達からバトンタッチされたときに、自分でリレー形式の遊びに参加することができたか。(知)
- ・自分の担当する物の実験に取り組み、友達と協力して結果をまとめることができたか。(主)
- ・自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いて自分との違いを知ったりすることができたか。(主)

<R7年度の指導案より>

成果と課題

- ・授業のなかで学び合いの場面が増え、学び合いに関する目標や評価規準を設定することで、児童生徒の成長につながった。
- ・チェックリストの項目を参考にして授業を検討したり、評価したりすることができた。
- ・児童生徒の実態に応じた目標や評価規準の設定。
- ・チェックリストのよりよい活用方法の検討。